

大牟田市に関する、さまざまな出来事を写真とともに紹介します。

※撮影の時だけ一時的にマスクを外していただいています。

まちかどレポート

障害のある人との意思疎通に役立てて

大牟田市のボランティア連絡協議会と障害者協議会で構成された「防災バリアフリープロジェクト」が、障害のある人が災害時の避難所でコミュニケーションをとる時に役に立つ「おたすけ手ぬぐい」を作成し、大牟田市へ寄贈しました。手ぬぐいは、視覚や聴覚など障害別に6種類作られ、“困りごとやどのような配慮が必要か”などの内容が絵や記号を交えて載せてあります。



交通ルールを守って、元気に学校に通います



新一年生の交通安全を願って、ランドセルカバー、防犯ブザー、黄色いワッペンが各協会と保険会社から市内の全小学校へ贈呈されました。4月4日に市役所で行われた贈呈式には、新一年生を代表して安部直晃さんと中野あまねさんが出席し、「交通ルールを守って元気に小学校に通います」と声をそろえて元気にお礼の気持ちを伝えました。



「弁当の日おいしい記憶のエピソード」作品コンクールで入賞

明光学園中学校の森桜咲さんが同コンクールで入賞を果たし、市長に喜びを報告しました。作品には、祖母が遠足の弁当に入れてくれる「がめ煮」の記憶などが書かれ、祖母はとても喜んでくれたとのこと。「また料理を教えてあげなきゃね」と言われたことがとても嬉しかったですと桜咲さんは笑顔で語りました。



チューリップがきれいに咲いたよ

諏訪公園にある平和モニュメント「秋桜」の花壇に、色とりどりのチューリップが咲きました。これは竹の子保育園の園児たちが昨年10月に植えたもので、子どもたちはきれいに咲いたチューリップの香りを嗅いだりしながら楽しんでいました。



世界自閉症啓発デーにあわせて 市庁舎がブルーにライトアップ

4月2日は国連が定めた「世界自閉症啓発デー」。4月2日～8日は「発達障害啓発週間」でした。それらにあわせて、大牟田市庁舎がブルーにライトアップされたほか、市役所玄関ロビーにて自閉症・発達障害当事者が描いた絵や撮影した写真を展示するなどの啓発活動が行われました。



鉄道友の会選定 「島秀雄記念優秀著作賞」を受賞

炭鉱電車保存会理事長の藤原義弘さん著書「三池炭鉱専用鉄道の略歴と機関車」が同賞に選定され、同著書の編集を行った大森貴代美さんとともに受賞を市長に報告しました。藤原さんは、受賞してから鉄道ファンからの問合せが相次いでいると喜びを語りました。



SDG's 教育に役立てて SDG's 日めくりカレンダーを寄贈

SDG's に関する教育や日々の生活の中で活用してもらいたいと、株式会社グリーン・シップから市内の小学5年生全員に対し、SDG's 日めくりカレンダーが寄贈されました。この取り組みは昨年に引き続き行われたもので、今年のカレンダーには、本市の子どもたちの活動の様子が紹介されています。同社の田中社長は「学校で行われているSDG's に関する取り組みをたすきリレーのようにつないでほしい」と話しました。



大規模災害時にも 安心して避難してもらえるように

災害救助法の適用を受ける災害時に、市内の宿泊施設等を避難所として円滑に活用できるよう、大牟田市と大牟田旅館組合が協定を締結しました。大坪組合長は「市民の生命・財産を守るようしっかり協力していきたい」と話しました。



マップを活用し 要支援者の避難方法などを確認

みなと校区で、まちづくり協議会が独自に作成した災害時避難マップを活用し、校区内での要支援者の把握と避難方法などを確認する図上訓練が行われました。今回の訓練を生かし、今年度中に実際の避難訓練も行う予定とのことです。